

令和4年度～令和6年度 第2回山梨県図書館協議会 会議録

- 1 日 時 令和5年10月4日（水） 午前10時30分～正午
- 2 場 所 県立図書館 2階 多目的ホール
- 3 出席者 (敬称略)
- (委員) 河本毬馨、橘田浩、篠原弘照、須藤令子、塚田純子、中澤まゆみ、
中山吉幸、長谷川千秋、畑充仁、保坂なおみ、丸茂哲雄、
山縣裕二、吉井潤
- (事務局) 県立図書館：小林副館長、土橋次長、飯沼司書幹、古谷総務企画課長、
三枝資料情報課長、市川サービス課長
- (生涯学習課) 佐久間技師
- (指定管理者) 滝川支配人
- 4 会議に付した議案
- (1) 県立図書館の運営状況について
- (2) 図書館の効果的な広報について
- (3) その他

事務局 議長は、「山梨県附属機関の設置に関する条例」第6条第1項の規程により長谷川会長
にお願いします。

議長 議題(1)(2)について事務局から説明をお願いします。

事務局 (資料1・2について説明。)

議長 議案について説明があった。それぞれの立場からの意見や質問をお願いします。

今回、資料2「都道府県立図書館の統計」があり、これまで蔵書冊数が全国の中で最
下位を争っているということで、かなり問題視されていたが、人口10万人当たりでみ
ると15位に上がるという見方が示されたのは非常に良かったと思っている。また、閉
館時刻が午後9時までで、全国1位になっている。図書館員はとても大変と思うが、様々
な働き方がある中で夜遅くまで開館しているのは非常にありがたい。こういったところ
も広報の材料となり得るのではないかと。数字は人に伝えていくのに非常に分かりやすい。
数字を追いかけているばかりでは、良い取組ができないが、一方で数字というのはわか
りやすさも持っているので、今回、非常にいい資料ができたと思う。ご意見などいか
がか。

委員 資料を見ると県立図書館の頑張りが伝わってくる。レファレンス・サービスは、どこの図書館も認知されていない。自治体で無作為抽出の市民アンケートをするとだいたいが図書館のレファレンス・サービスを使ってないし、レファレンスを知らないことが多い。実際に使ってみた人の中で、満足した人が多いという傾向はどこの図書館も同じ。認知してもらうには、例えばもっとこういう人に来てほしいとか、戦略的に例えば高校生に来てほしいとか、具体的にターゲットを絞った方がいい。そうすると平日と休日、時間帯によって利用者層も違うので、それに合わせてF a c e b o o kやXなどで、つぶやくタイミングを時間に応じてやるといいと思う。私も図書館の現場にいたころはT w i t t e rでつぶやいたが、年齢層によりスマホを見る時間がだいたい決まっている。多いのがお昼と夜の20時以降、あと22時くらいとかで、図書館は21時までやっているの、つぶやく職員は大変だが、時間に応じて行くとまた少し変わってくるのかと思った。あとは、多分負担になると思うが、今、年配の方もL I N Eをする。図書館でL I N Eの公式アカウントをもっているのは、大きい町では福岡市総合図書館や京都の宇治市図書館、あと最近図書館の業界で話題になる「まちなか図書館」で有名な豊橋市図書館で、割と使われていると思う。若い世代向けだったら、これも負担になるが、インスタグラムとかT i k T o kが良いと思う。

議長 事務局からよろしいか。

事務局 インスタグラムやT i k T o kは、職員の間でも話題になっているが、やはり更新や発言のあったように発信する時間帯も狙い撃ちしなければならないということもあり、なかなか踏み出せずにいる状況であるが、非常に参考になった。

議長 インスタグラムなど、なかなかハードルが高いと思うが、若手職員の中で取り組んでみようという職員を中心にやってもらうと無理なくできるかと思う。非常に貴重なご意見をいただいた。他にご意見等あるか。

委員 私たち子育て支援センターでもまさに今広報が課題となっていて、これまでは、ブログとかホームページで情報発信していたが、今後どうしようかと。若いお母さんたちはインスタが一番見ている、Xは意外と使っていない。利用登録時に公式のL I N Eに登録してもらい、いろいろな情報を定期的に発信していて、例えば、新刊やおはなし会のお知らせをL I N Eで発信すると結構反応がある。やはり、紙ベースのものとか掲示とかいろいろなことを考えるがなかなか届かず、本当に難しい。また、図書館や子育て支援センターでどんなことをしてもらえるのかということが意外と分かっていない。そもそも「レファレンス・サービス」という言葉自体が分からないと思うし、こんなことを

図書館で教えてもらえるということはかなり具体的にお知らせすると、利用されると思った。それから、Facebookは、若者はあまり見ていないが、Facebookのグループに自分が良かった本などを紹介する投稿が結構多くみられるので、図書館の方からこういう本がありますという一方向の紹介ではなく、利用者も参加できるような双方向の関係ができてくると、もっと図書館を身近に感じると思った。あとは子育て支援の方でも今、地域支援をやっていて地域や異業種などとの連携の強化が推進されてきている。東京都健康長寿医療センター研究所では、品川区の図書館と連携して、年配の方の認知機能が読み聞かせをすることによりどのくらい改善されるかという「りぷりん」というプログラムを行っている。これは一つの例だが、直接読書に関係のないところとの連携によって、面白いいろいろなことが広がると思った。

議長 利用者の目線でいろいろなヒントをいただいた。他にご意見があるか。

委員 報道機関への投げ込み先は、図書館側で選択できるのか。例えば、図書館側から、「これは新聞で取り上げてもらいたい、これはテレビで伝えてもらいたい」などと報道媒体を選択できるのか。

事務局 県の広聴広報課を通しており、こちらから選べるものではない。

委員 来館しないと分からない、興味を持って検索しないと分からない広報より、報道機関によるテレビやラジオなどから入ってくる広報の方を重視すべき。つまり、テレビやラジオなどを何気なく視聴していて、「県立図書館でこういうことをやっているんだ」と気付かせる情報の取り方が重要だと思う。今後は、外部メディアとの繋がりをより一層密にして、潜在利用者に気付いてもらえる広報媒体は何かを図書館側で選べたら、より効果的な広報が展開できるかと思う。

議長 希望をこちらからも伝えていくということも良いかと思う。他にいかがか。

委員 今の発言に関連して、南アルプス市立図書館では、広聴広報課を通じて新聞社等に情報提供することもあるが、図書館の方からも新聞に載せてほしいことがあれば、直接新聞社等に是非取材に来てくださいと伝えている。広聴広報課の方で発信したいことと図書館の方で発信したい情報が違う場合もあるため、こういった形をとっているが、県立図書館でもいかがか。

議長 まさにそのとおりだと思う。他にご意見等あるか。

委員 皆さんの発言をすごく納得しながら聞いていた。前回の協議会で、もう少し利用者の分析ができるかという意見を出したところ、今回細かい分析資料を入れてもらいとても参考になった。資料1-1の8頁「年齢別貸出統計」だが、貸出人数の年齢区分割合が二桁になっている30代から70代を合わせると69%なので、7割が30代から70代という分析ができると思う。その下の「分類別貸出統計」をみると、30%が文学で26%が絵本なので、30代から70代の父母や祖父母が子や孫に借りる絵本も含まれて、文芸と絵本がほとんどを占めている。本来レファレンスが利用されるのであれば、社会科学、自然科学や歴史、哲学、産業とかがもっと増えていくと思うので、今来ている30代以降の人たちに、例えば貸出のときにレファレンスのことを紹介するチラシを渡して、図書館でいつでもこういったことを調べてもらえるということを紹介していくのも効率的だと思う。

10代20代の年齢層の利用が少ないが、ここが先ほどから課題になっている、なかなか新聞やテレビから情報を取らない年代だと思うので、やはりLINEとかXとかインスタとかSNSを活用する。Facebookは使う年齢層が高くなってしまっているので、皆さんの発言のようにLINEの公式アカウントの一予算とかいろいろ問題があると思うが一運用ができれば、若い人たちは、ほとんどLINEのアカウントを持っていると思うので、そういう意味では訴求力が高いと感じる。学生たちは、多分勉強しには来ていると思うので、具体的に分からないが、今来ているけれど借りていけない人たちにどう利用してもらえるかという視点から発信をしていったらいいのではないかな。書店という立場から言うと、やはり情報発信はすごく課題になっていて、LINEとX、インスタ、Facebookをすべて使っているが、Xが一番反響があると感じる。Facebookは、使う年齢層が高いので高頻度で更新しなくていいが、公式的な発表などはFacebookで発信していくと使っている方には情報が行き渡っていくと感じる。あとXとLINEを上手く使っていく。インスタは若い女性がよく見ているが、やはりおしゃれな画角とか結構高度な技術が必要になってくるので、図書館で勉強会を行うなど、上手く職員で共有できれば、取り入れたらいいかと感じている。

議長 非常に具体的に数字の分析もしていただいた。この結果は私も本当に驚いた。てっきり、利用者は、ほとんど高齢の方が多いというイメージでいたので、働いている方が多いというのは、非常に一つの方向性を示していると思うし、子どもたちのために絵本を借りているという可能性もかなりありそうだ。30代から49才までの方は、貸出人数も多いが、貸出冊数も非常に多くなっていて、人数に対して3倍以上になっていて、恐らく絵本を何冊か借りるんだろうというようなことが読み取れると感じた。他にいかがか。

委員 資料1-1の8頁の表について、30代以降は10才刻みで、22才までは学齢ごとと思う。比較するのであれば、同じ刻みの資料の方がよい。それにしても、やはり、若者の利用をどう伸ばしていくのかというのは、今後の課題ではないかと思っている。高校図書館の利用等を考えると、やはり学習の場所として使用している生徒がかなり多い。高校生ぐらいまでは、交通の状況等もあるため、市町村の図書館も同じ状況ではないかと思う。なかなかレファレンスや貸出に結びつかないという同様の課題を抱えている。やはり、高校の場合には、生徒と対応する司書や司書教諭の働きかけが非常に大きな力だと思っている。高校生ぐらいまでの学齢でいうと、市町村等の図書館との連携を図り、県立図書館に行けばこういう本があるということを窓口等で話していただくことが利用に結びつくのではないかと思う。

議長 高校生は確かに学習の場として利用していることが多いということ、来ているのであれば何かいろいろな仕掛けができそうだと思う。

委員 コロナ禍を経て来館者数が伸びているというのは良かった。今回、広報がテーマで、図書館として特に伝えていきたいことは、レファレンスの周知と来ていない方の利用ということなので、それについてコメントしたい。このレファレンスのリーフレットは、最初の利用者登録のときに渡しているか。

事務局 最初の登録のときは渡していない。館内やカウンターのそばに置いたり、気付いたときに渡したり、高校生の探究学習連携のときなど目的を持って集まった場合などに渡している。

委員 これは、具体的な事例を挙げてこういうサービスができるという分かりやすいリーフレットである。利用者登録は、最初に皆さんするので、一緒に配ると効果的かと思う。パスファインダーは、ホームページにあるが、印刷版は館内に置いてあるか。

事務局 ホームページと同様の形式で印刷したものがカウンターの側に置いてある。いろいろ種類があって、少しずつ更新している。子ども向けにも作成している。

委員 非常に素晴らしいと思う。パスファインダーで探しきれなかった人たちは、そのままレファレンスに誘導できると思うので、パスファインダーからレファレンスデスクに誘導するような仕組みとか、サービスの動線みたいなものは考えた方がいいと思った。あ

と、レファレンス・サービスの回答というのは、参考図書等により根拠があるしっかりとした情報を提供することだと思うが、全年代の利用者が日常的に求めているかというところではないと思う。特にレファレンスを求めている人というのは、仕事をしている現役世代だと思う。そういう人たちにレファレンス・サービスをやっているということをしきりと周知しなければならない。そのためには、例えば県内の企業にレファレンス用のリーフレットを作成し配布するとか、甲府駅近くのコワーキングスペースに置かせてもらうとか、行政も対象にするのであれば、庁舎に置かせてもらうなどの行動をすると現役世代にサービスの周知ができるのではないかと。あと、図書館の利用促進では、SNSの利用はいいと思うが、一方でSNSのアカウントを作っても、多分図書館に全く興味のない人はフォローしないと思う。全く興味のない人たちにアプローチするとなったら、アウトリーチ活動が必要である。そもそも全く興味のない人たちがどんな人たちなのか、潜在的な利用者の特定から始める必要がある、きちんと分析をしたうえで、どう広報をしていくのかと段階を踏まないと難しいと思う。

議長 非常に具体的にレファレンスに関することとSNSに関することの見解をいただいた。事務局からいかがか。

事務局 レファレンス・サービスについては、図書館として力を入れていきたいが、なかなか利用してもらえないという古くからの課題があるので、意見をいただきありがたい。確かに何種類かパンフレットを作っているが、利用者登録したときに渡すのは一定の効果が期待できると思うので取り入れたい。

議長 他にいかがか。

委員 時間があるので、割と図書館に行くが、年配者が新聞や雑誌を読んでいたりする姿をよく見かける。先ほどから皆さんの発言を聞いていて、現役世代や若い方にもレファレンスは大切だが、高齢者にとっては、「レファレンスとは？」というところから始まるのではないかと思う。私は、現役を引退してから図書館をよく利用していて、レファレンス・サービスを受けたこともある。例えば相続に関することやそれに関する法律とか、人生の節目節目に必要な資料や知識を得たいときに、いきなり書店に行って訳も分からないまま本を買ってくるよりは、図書館でこんな本がありますよと勧められて手にすることもできて良かったと考えている。そんな点で高齢者向けのレファレンスというのは、多分若い方の場合とは変わってくると思うが、できることがあるのではないかと感じた。

今、AIやインターネットなどが多く利用されていて、最近、学校でも調べ学習とかが増えている。その報告書を書くような場合に「しっかりとした正しい資料に基づいているのか？」というようなレポートを書いてしまうことも多いのではないかと思う。そ

ういうときに正しい資料というのがどういうものかを知らせる必要があるし、それだけでもレファレンス・サービスが役立つのではと思う。

それから一番初めに会長が発言したように、他の県との比較の資料を見て、本当にこの図書館は頑張っているなと思った。同程度の人口規模の県と比べても、遜色ない。先日、静岡県の新しい図書館をつくるためのアンケート結果をみていたら、山梨県立図書館にいい点があるからそれも考えてほしいということが書いてあり、県外にも認められているととても嬉しく思った。あと、利用者として感じていることだが、時どきで情報サテライトなどで様々な展示があり、とても関心を持って見ている。情報サテライト1については2階のサービスカウンターのそばにあるのでよく分かるが、情報サテライト2の場所は、南側から入ってくると大きく幕があるので分かる。北側から入ってくると全く分からない。それから郷土資料の展示コーナー（郷土の恵み）もどこにあるのかわかりにくい。とにかく図書館に来てもらうことが大切なので、図書館を利用する初心者にとって優しい図書館であってほしい。

議長 様々な視点からの意見をいただいた。他県で山梨の図書館が褒められて嬉しく思う。他にいかがか。

委員 毎月、貸室でイベントを開催させてもらい大変助かっている。とても素晴らしいスタッフの対応であると感じている。しかし、Wi-Fi環境がかなり厳しく、ポケットWi-Fiを持参しないとできない。これからは、交流ルームも含めてネット環境ももっと一流であってほしい。イベントで使う資料をクラウドから落とすが、あるときクラウドに繋がらず急遽断念したこともあった。お金のかかる問題だが、Wi-Fi環境の強化について考えてもらいたい。私は今、SDGsのことをしており催しをペーパーレスで行っている。各学校でデジタル教科書が採用されようとしている。実際、デジタル本がたくさん普及している。図書館として今後どうしていくのか。私個人としては本が大事なので、本主体で行きたいし、本の匂いを嗅ぎながら読むのが好きだが、若者たちは、そこは関係ない。合理的にいかに自由にということになってしまうと思う。それからこれもお金がかかる話だが、今後、図書館に人を集めることを主にするのか、図書館の情報とか本を読む人を増やすのか。それによっても図書館の今後の方向性がデジタルという世界の中で変わってくる。将来に向けて他県に負けないよう、小さな県であるが是非しっかりとやってもらいたい。

議長 Wi-Fiやペーパーレスなどまさに課題である。ぜひ検討いただきたい。他にいかがか。

委員 私は幼稚園の園長を務めていて、先日子どもたちと庭で一緒に遊んでいたら、子どもが小さい虫の幼虫を捕まえてきて、「先生これ何」と聞くので、「分からないからどうしようか」と聞いたら、「じゃああそこに図鑑があるから調べてくる」と言って図鑑を持ってきて一生懸命調べている。でもわからない。それで「どうしたらいいと思う」と聞いたら、「お父さんやお母さんに聞いてみてなんとか考えてみるよ」というので、「考えるんだすごいね」と言ったら、最終的にお母さんが県立図書館に行って調べて「なんとかという蛾の幼虫でした」ということを教えてくれた。幼稚園の子どもたちにとって、デジタルというものは手に届かないもので、彼らが何で情報を得るかという、図鑑などの本であって、人生で初めて出会ういろいろな情報として本が大事なんだとその一時であるが考えさせられた。今、保護者も迎えに来る際に携帯を見ながら子どもの顔も見ないことが目に付くが、子どもたちは、絵本で読んだことに刺激を受けて楽しみにしている場面が多く見られる。先生方にも本を読むよう伝えているが、子どもたちにとっての絵本というのは、これからの人間形成の一番大事な時期に出会うもので、彼らにとってすごく大事な財産だと思う。資料1-1の8頁の下の表で絵本が多い。私の子どもが中学生と小学生で、県立図書館から4、5冊借りてきた本を読んでいる。デジタルもすごく大事だが、本の匂いとか多様性というものを感じるものとして、本が身近にあるということは幸せなことではないかと思う。この間も図書館から絵本の紹介パンフレットをいただき、とても良かったので、保護者にもメールでお知らせした。こういった情報を保護者に提供するのはとても大事なことで、それを元に保護者が図書館に行ったり、本を借りたりというようなことに繋がっていくと思うし、子どもたちにとっても、絵本の中に囲まれて過ごせるのも幸せではないかと思う。幼稚園とか保育所とかにいろいろなものを配布するのであれば是非協力したい。本に親しむこともすごく大事だし、子どもたちにとっても来やすい図書館であってほしいと思っている。

議長 幼虫を見つけたお子さんも貴重な経験をされた。デジタルも大事だし、紙の経験も大事、両方の経験をしていけるようになればと思う。他にいかがか。

委員 要覧の27頁(10)「学校支援セット貸出数」について、私は中学校に勤めているが、県立図書館で貸出セットがあることを分かっているながら貸出数が伸びないのはなぜかと思っていた。小中学生数も少なくなっている。貸出セットは、学校図書館担当が借りるが、学校司書が全学年それぞれの教科について(どんな学習を進めているのか)具体的に把握しにくい状況がある。きっと県立図書館の方で広報するのは学校司書あてと思うが、実際に困っているのは国語科の教員や担任であるのに、そこに具体的に伝わっていない。図書館の担当だけでなく、授業を担当する教員に実際に手に取ってもらおう機会を用意してもらってもいいのではないかと思う。

議長 実際目にする機会があるといいと思う。せっかく良いセットをたくさん作っている
ので、是非活用していただけるよう取組をお願いします。他にいかがか。

(意見等なし)

貴重なご意見をいただいた。やはり、あらゆる活動を広報するにしてもターゲットをはっきりさせることがいかに大事かということが議論の中ではっきりしてきた。対象者ということもそうだが、この図書館は対象者にいったい何をしてもらいたいのかというところ、本を借りてもらいたいのか、館内を利用してもらいたいのか、それによっても発信方法が大きく変わってくる。その何をしてもらいたいのかの元になるものとして、この図書館の強み、もともと持っているポテンシャルであったり、他とは違っているところを見つけ出し、そこを伸ばしていくようなイメージがあるといい。現状だけでなく、10年後20年後を見据えて活動をしていく。将来を見るのは非常に大変だが、この先どうなっていくのがいいのか。波及効果には時間がかかるので、10年後20年後を見ていただくといいのかと思う。その中で、目的を設定し、どういう広報をするのか、誰に何を伝えるのかということになっていく。伝える内容によって、伝え方というのも大きく変わってくると思う。先ほどご意見のあったこのレファレンスリーフレットは、今日の資料の中で一番背中を押されやすくわかりやすいリーフレットだと感じた。なぜこんなに分かりやすいかと言うと情報が少ない。敢えて情報を少なくして、なんだろうと読んでみると面白いと思わせ、そして更には先にはQRコードが付いていて、ここに誘導される。実は今日の資料の中でQRコードのあるのはこれだけであった。皆さん概ねスマホを持っていると思うので、QRコードを上手く使うと情報をぐっと減らすことができ、かつ情報を届けることができると思う。また、このわかりやすいデザイン。なんだろうと思わせてくれるデザインも非常に良かったし、一方でその対象者によってはもっと詳しい情報量があってもよいのだということも今回わかったので、ぜひ検討いただければと思う。それでは、この議題について意見が出尽くしたということによろしいか。

(了解)

本日も大変充実した協議をいただき感謝する。これでこの協議を終了させていただく。
次の議事(3)その他。委員から何かあるか。

(特になし)

それでは、議事については以上で終了する。議長の任を解かせていただく。ご協力に感謝する。